長崎県中学校総合体育大会　軟式野球競技

特　別　規　定

長崎県中学校体育連盟軟式野球競技専門部

【競技を行うにあたって】

1. １チーム９名からの参加を認める。
2. 試合時間の制限は行わない。ただし､大会初日については､大会運営上以下のとおりとする。
   (ア)大会運営上､大会初日は回数にかかわらずに試合開始から１時間 30 分を超えて新しいイニングに入らない。
   (イ)大会初日は７回を終了して､または制限時間を超えて同点の場合､延長戦を行わず２回を限度にタイブレーク方式で決着をつける｡それでも勝敗が決しない場合は､最終回出場選手９人による抽選で勝敗を決する。
   (ウ)大会運営上､大会初日はシートノックを行わず､サイドノックのみとする
3. 天候等による大会実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定する。その際、会場を変更する場合もある。
4. 日没・降雨などの事情で試合続行が不可能な場合は、コールドゲームやノーゲームは適用せず、特別継続試合とする。

   ※特別継続試合の例：５回裏の攻撃が終了した時点で試合続行が不可能になった場合は、翌日、継続打順で６回表の攻撃から試合を開始する。

5. 試合を行っているチームの行為が原因で、試合続行が不可能となるようなトラブルが発生した場合、起こしたチームが責任を負うべきであるから、そのチームを敗者とする。
6. 監督等の服装については、次のとおりとする。
   (ア)監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用し、監督は背番号 30 番、コーチは 29 番、28 番の背番号ををつける。
   (イ)コーチではない教員がベンチに入る場合は、平服（白いワイシャツまたは白いポロシャツが望ましい。ただし、女性は考慮する。）に選手と同一の帽子とする。ただし、ノックを行う場合はユニフォームで行う。
   (ウ)スコアラーやマネージャーについては、ユニフォームを着用すること。もしくは、自校の制服を着用し、選手と同一の帽子を着用すること。
   (エ)サングラスは使用しない。事情がある場合は大会本部の許可を得る。
7. 選手、監督等のユニフォームの着用について
   (1) 見苦しくないように着用する。
   (ア)上着の裾を出さず、たるませずベルトが見えるように着用する。
   (イ)パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
   (ウ)肩の部分をたくし上げない。
   (2)ユニフォームの上着に個人名は入れない。また、ノースリーブの上着は認めない。

   ※（公財）全日本軟式野球連盟規程細則には､「ユニフォームの袖の長さは両袖同一で、左袖に日本字またはローマ字による都道府県名を必ずつけなければならない。また、他のものをつけてはならない。」と記されている。本大会では特に規制はしないが、この規定に沿ったものを推奨する。

   (3)ストッキングについて次のとおりとする。
   (ア)危険防止のため、アンダーソックスとストッキングの両方を着用する。
   (イ)ハイカットストッキングは禁止する。
   (ウ)選手によってミドルカットやローカット、紺や黒等が混在しないようにチームで統一する。（合同チームについては、それぞれの学校で統一すればよい。）
   (エ)アーチ仕様のものと足掛けテープ仕様のストッキングの混在は認めない。
8. 試合中のネックウォーマーの使用を禁止する。
9. 単独チームの場合は、チーム統一（色、形状、デザイン）のユニフォームとし、合同チームについては、各自チームのユニフォームでも構わない。ただし、補充合同については、統一ユニフォームとする。
10. 用具・装具の使用は、以下に定められたもの以外は、公認野球規則および競技者必携に定められたものを使用しなければならない。また、特に記載のない用具・装具については原則使用禁止とする。
    (ア)使用を禁止するもの
    ① リストバンドは使用できない。
    ② 滑り止めスプレーは使用できない。
    ③ 走者が出塁時に、一回り大きいサイズの走塁用手袋の使用はできない。
    ④ マスコットバット、バットリング、鉄棒、公認球以外のボール等、試合で使用しないものの球場内への持ち込みは禁止する。
    ⑤ レッグガード・エルボーガード・手甲ガードは原則使用禁止とする。事情により使用を希望する場合は、試合前（打順表提出時）に主催者・審判員に申し出て許可を得る。
    (イ)使用できるが、色等の指定があるもの
    ① 打者・走者・守備時の野手の手袋の使用を認める。色は白・黒の一色とする。手袋とサポーターの一体型のものの使用も認める。
    ② ヘルメットは SG マークのついたものを、チームとして色やデザインは同一のものを着用する。また、

安全性が確保できないと判断されたもの（例：保護パット不装着、ひび割れ等）は使用できない。

③ スパイクのチーム内（指導者も含めて）での甲被カラーは、白または黒の一色とし、**チーム内での混在を認める。**

④ 木製バットは、黒色・ダークブラウン系、赤褐色系及び淡黄色系とし、木目を目視できるものとする。ただし、拙劣な塗装技術を用いていないものとする。

(ウ)試合前（打順表提出時）に主催者・審判員に申し出て許可を得た場合に使用できるもの

① 医療目的でのサポーター（手首や指を固定、保護する目的のもの）の使用は認める。ただし、色は白・黒・ベージュの一色のものとする。

② アームスリーブの使用については、サポーターと同じ扱いとする。医療目的でアンダーシャツと同色のものとし、**メーカーのロゴ等やアンダーシャツと異なる色のステッチ等がないもの**とする。ただし、投手が着用する場合は、片腕だけの着用は不可とする。

③ テーピングをする場合、露出する部分については肌の色に近いものを用いる。投手は、投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。

11. 捕手の装具は連盟公認のマークのついたものを使用する。マスクでスロートガード一体型のものは、スロートガードを付ける必要はない。ファウルカップは必ずつける。

【試合開始前】

12. 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻**６０分**前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず、何ら連絡がない場合は棄権とみなす。交通事情による到着遅延の場合は、大会本部で協議し決定する。
13. 打順表の提出は、その日の第１試合は試合開始予定時刻の 40 分前まで、第２試合以降は前の試合の４回終了までとする。監督と主将は打順表を５部持参し、登録原簿と照合ののち、前の試合の４回終了時に球審立ち会いのもと攻守を決定する。
14. ウォームアップについては以下のとおりとする。
(ア)人数は、登録メンバー（選手、監督、コーチ）と補助員３名以内（ヘルメット着用）とし、ユニフォーム着用者以外のグランド内への立ち入りを禁止する。
(イ)球場内アップの内容として、ハーフ打撃、フリー打撃は禁止し、トスバッティング（芝生の上は避ける）までとする。
(ウ)球場内練習時の服装はユニフォームを原則とする。第１試合チームは打順表の交換まではチームで統一されたＴシャツも可とする。
(エ)グラウンドに出る際は、必ず着帽する。
15. シートノックについては以下のとおりとする。
(ア)試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りでない。
(イ)時間は**５分**以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
(ウ)監督・コーチ・登録選手の他に３名の補助員（当該チーム選手・ヘルメットを着用すること）をつけて行うことができる。
(エ)シートノックを希望しないチームは攻守決定時に本部に伝える。
(オ)相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手の投球練習場での投球練習は認める。
(カ)マウンドは使用しない。
16. 補助員の服装は選手と同じユニフォームとする。準備（用意）できない場合は練習用ユニフォームまたはチームＴシャツでもかまわない。
17. ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備が出来るまでの時間に、ベンチ前でキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。
18. 相手のシートノック時に審判員または大会役員によるマナー・用具検査を行う。（シートノックを行わない場合は、ベンチの入れ替え後すぐに行う。その際は、両チームの検査終了後、サイドノック等を行うことができる。）
19. 試合開始予定時刻前でも、前の試合が早く終了した場合、次の試合開始を早める場合がある。その場合、開始予定時刻より３０分以上は早めない。

【試合中】

20. 選手交代の申し出は、監督が行う。
21. ベンチ内でのメガホン使用は、監督に限る。
22. ベンチ内での電子機器類の使用は、電子スコア記録用としても認めない。
23. 選手以外は、コーチスボックスに入ることはできない。
24. 投手（救援投手を含む）の準備投球数は初回に限り、７球以内（１分を限度）が許される。次回からは、３球以内とする。また正捕手の装具準備時において２球を過ぎる場合、予備捕手は立って捕球する。
25. 熱中症予防として、４回終了後または試合開始後 45 分頃、及び特別延長戦開始前に給水タイムとグラウンド整備（５分程度）を行う。その際、マウンドの整備は行わない。
26. 熱中症予防のため、守備時間が長引いた場合、イニングの途中であっても給水タイムを設ける。（20 分を目安として本部で判断し、打者のプレイ完了後にタイムを設ける。）
27. 選手の水分補給のためのタイム申請は、タイム回数にカウントしない。（ただし、指導者の指示が行われた場合にはその限りではない）

28. 次の試合のバッテリーの投球練習については、先発バッテリーに限り、打順表の提出・攻守決定終了後、試合に差し支えないようにブルペンでの投球練習を許可する。
29. 監督が投手のところに行く回数の制限について「投手のところに行く」とは、監督がタイムをとってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっているところで指示を与える状態を指す。伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合、投手の方からファールラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
30. ボールデッドで改めてタイムをとる必要がない状態の時も、「27」と同じ行為であれば回数に数える。
31. **投手の投球数は、１日 100 球、大会期間中 350 球までとする。（タイブレーク方式も含める。）ただし、投球数が 100 球に達した打者までは 100 球を超えて投球してもよい。また、大会期間中、350 球に達した打者までは 350 球を超えて投球してもよい。なお、雨天等の順延のためダブルヘッダーとなった場合も、本規定を適用する。**
32. 試合中の控え選手のグラウンド内でのウォームアップは、バッテリーを含む４名以内（２組）としキャッチボールのみ認める。（ランニングやダッシュ、ストレッチ、素振り、ゴロやフライ捕球等禁止）ただし、攻守交代時に限り、ファウルグラウンドで外野の方向へランニングすることを認める。また、代打の準備等を行う場合は、指定された場所（グラウンド内サークル等）で行う。
33. **ＤＨ制は適用しない。**

【その他】
34. 試合開始・終了時の礼は両チームが同時に行う。また、相手チームと別に審判員に礼をすることはしない。
35. 試合進行や大会運営の円滑化のため、次のことに留意する。
    (ア) 無用なタイムをとることを慎む。
    (イ) 先頭打者とベースコーチは攻撃前のミーティングには参加せず、駆け足で位置につく。
    (ウ) 出塁した際、バッティング手袋をベースコーチに渡さず、自分のユニフォームのポケットの中に入れておく。走塁用手袋に変えるためにタイムをかけ、試合の進行を遅らせてはならない。
36. 試合終了の挨拶をもってすべてを終了とし、速やかにベンチを空ける。ただし、応援席への挨拶は認める。
37. 応援については、監督が責任を持ち、以下の事項を守って行うこと。
    (ア) 応援はあくまで自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいだくような言動は禁止する。
    (イ) **太鼓等鳴り物の応援を認める**が、自チームが攻撃している場面での応援とする。自チームが守備側の時は、座っていることが望ましい。**応援の切り替えは３アウト成立時とする。**
    (ウ) 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことは禁止する。
    (エ) 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
    (オ) 試合を妨害するような応援はしない。
    (カ) メガホンを使用してもよい。
    (キ) 笛（ホイッスル）は使用してよいが、投手が投球動作に入ると同時に突然使用したり、使用をやめたりするなど投手の投球に影響を与えるような使用は慎む。また、四死球やワイルドピッチ・パスボールのときに、笛で盛り上げることのないようにする。
    (ク) 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
    (ケ) 許可された場所以外にテントを張ることは禁止する。
38. 選手・応援等の健康を最優先とし、天候等の理由により、上記の内容を変更する場合もあり得る。その際は、監督へ通達するものとする。